

事業の概要

当社グループの事業は、ミニチュア・小径ボールベアリングやロッドエンド&スフェリカルベアリング、ファスナー及びピボットアッセンブリーを主要製品とする機械加工品事業セグメント(当会計年度売上高比率 24.5%)と、液晶用LEDバックライト、ハードディスクドライブ(HDD)用スピンドルモーターや、ステップモーター、DC ブラシレスモーター、DC ブラシ付モーター、ファンモーター等のモーター、センシングデバイス等を主要製品とする電子機器事業セグメント(同 69.1%)、スマートフォン用カメラアクチュエータ、機構部品、コネクタ、スイッチ、電源、アンテナ、チューナー、半導体デバイス等を主要製品とするミツミ事業セグメント(同 6.3%)、自社製機械を主要製品とするその他事業セグメント(同 0.1%)により構成されています。

なお、2017年1月27日付でミツミ電機株式会社との株式交換による経営統合を実施し、同統合日より同社を連結対象に組み入れるとともに、ミツミ事業を新たに報告セグメントとして開示しています。

製品開発は、主に日本、ドイツ、タイ及び米国で行っています。生産は日本、タイ、中国、米国、シンガポール、マレーシア、カンボジア、フィリピン、ドイツ、チェコ及び英国などで行っています。当社グループ最大の生産拠点であるタイの生産高が連結生産高に占める比率は59.2%(当会計年度)であり、これに次ぐ中国での生産高は17.4%(同)です。日本を除くアジア全体の生産高は86.8%(同)であり、海外全体の生産高は95.7%(同)です。

当社グループ製品の主な市場は、OA及び通信機器(当会計年度売上高比率 40.5%)、PC及び周辺機器(同 15.6%)、自動車(同 12.7%)、航空宇宙(同 7.3%)、そして家電(同 6.7%)などです。これら製品のメーカーである当社グループの顧客は、日米欧のほか中国を中心にアジアで生産を拡大する企業が多いため、当社グループの地域別売上高は中国(香港を含む)が最も多く、連結売上高に占める比率は32.5%(当会計年度)、次いで米国が27.4%(同)、日本が14.6%(同)、他は欧州、タイ等となっています。

戦略の概要

当社グループは生産性を徹底して見直し、従来製品の一層の収益力の向上を目指します。また、機械加工製品技術とミツミ電機株式会社及び当社グループが保有する電子機器製品技術が融合された複合製品事業を拡大させていきます。加えて、製造、営業、技術及び開発の領域を越えた総合力の発揮により、「顧客要求対応力」と「価格対応力」の強化に努めます。さらに、地域的なリスク検討を行いながら、大規模な海外生産工場の展開とグローバルな研究開発体制を整備するとともに、M&A・アライアンスを通じて、収益力の向上、企業価値の拡大を積極的に進め、2021年3月期には売上高1兆円又は営業利益1,000億円を目指します。

これらを具体的に推し進め、業績の一層の改善をはかるための下記に示す方針を設定し、その執行に取り組んでまいります。

- ①製品及び事業を「コア」「サブコア」「ノンコア」に分類してポートフォリオの再構築を進めます。
 - (i)「コア」事業は、産業のコメとして絶対的永続性がある製品の中で、当社が特に競争力を発揮し、優位性を確保できる製品及び事業と定義し、今後の成長戦略の柱として位置づけます。具体的には、ベアリング、モーター、センサー、コネクタ・スイッチ、電源、無線・通信・ソフトウェア、アナログ半導体を「七本槍」コア事業として位置づけ、積極的にヒト、モノ、カネといった経営資源を投下します。
 - (ii)「サブコア」事業には、スマートフォンやゲーム、HDD用製品のように、永続的ではないが大きな収益の見込める製品及び事業を分類します。本事業領域では、徹底した生産性の向上と新規部品開発を進めて競争力を強化するとともに、将来の市場の縮小に備えた施策を併せて実施します。
 - (iii)「ノンコア」事業は、大胆な選択と集中を検討します。
- ②既存事業に加えて、ミツミ電機株式会社が保有する製品及び技術を融合させた高付加価値ソリューションを「+IoT」事業とし、その開発及び事業化を加速します。

具体的には、ひずみゲージ、MEMSセンサー、カメラモジュール、アンテナ等の入力機器とインバーター回路、ドライバー回路、電源IC、電池保護IC、スイッチング電源、無線等の変換・制御機器、モーター、アクチュエータ、触覚デバイス、LEDバックライト、照明機器、ベアリング等の出力機器を組み合せ、スマートシティ、ベッドセンサー、触覚デバイス(ハプティクス)等の新たなソリューションを開発し提供します。